(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3103642号
(U3103642)
(45)発行日　平成16年8月19日(2004.8.19)　(24)登録日　平成16年6月9日(2004.6.9)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A44C 25/00　A44C 25/00 Z

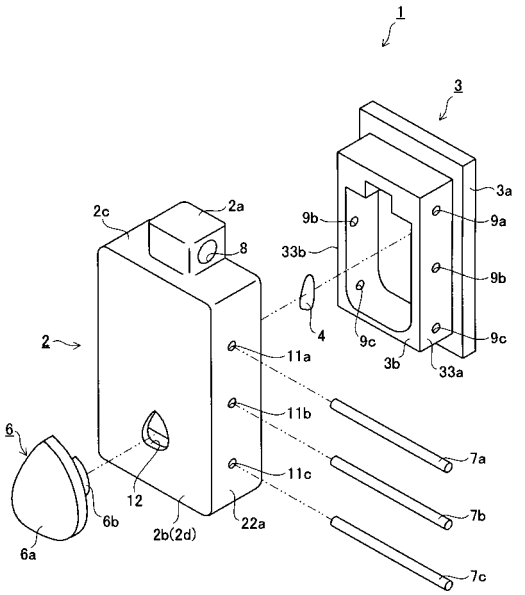
評価書の請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 10 頁）

(21)出願番号　実願2004-891(U2004-891)
(22)出願日　平成16年2月27日(2004.2.27)

(73)実用新案権者　396020453
有限会社ジュエリー・ショウ
岐阜県各務原市入会町４丁目９４番地
(74)代理人　100098224
弁理士　前田　勘次
(72)考案者　小路　栄二
岐阜県各務原市入会町４丁目９４番地

(54)【考案の名称】装身具

(57)【要約】
【課題】身体組織の一部を収容し、写真及び文字情報が彫刻され、常に身に付けておくことのできる装身具を提供することを課題とする。
【解決手段】装身具１は、銀を素材として形成された蓋体２、及びステンレスを素材として形成され、蓋体２と嵌合する収容部３から構成され、内部に乳歯の欠片４を収容可能な収容空間を有する略箱型の装身具本体と、金を素材として形成され、蓋体２に装着される装飾部６と、装身具本体の嵌合状態を固定する棒軸７ａ等とを具備してネックレスに形成されている。そして、装身具本体の表面には、装身具１の使用者の家族の写真や本人の氏名等に関する文字情報が直接彫刻されている。
【選択図】　図４



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
宝石または貴金属を素材として形成された装飾部と、
前記装飾部が装着される蓋体、及び前記蓋体と嵌合可能に形成された収容部とを有し、内部に形成された収容空間に人間または動物の身体組織の一部が収容される装身具本体と、
前記装身具本体の前記蓋体及び前記収容部の嵌合状態を保持する保持手段と、
前記装飾部を前記装身具本体に装着した状態を固定する固定手段と
を具備し、
前記蓋体または前記収容部の少なくともいずれか一方は、
装身する使用者または前記収容空間に収容された前記身体組織の一部と関連する写真が彫刻されていることを特徴とする装身具。
【請求項２】
宝石または貴金属を素材として形成された装飾部と、
前記装飾部が装着される蓋体、及び前記蓋体と嵌合可能に形成された収容部とを有し、内部に形成された収容空間に人間または動物の身体組織の一部が収容される装身具本体と、
前記装身具本体の前記蓋体及び前記収容部の嵌合状態を保持する保持手段と、
前記装飾部を前記装身具本体に装着した状態を固定する固定手段と
を具備し、
前記蓋体または前記収容部の少なくともいずれか一方は、
装着する使用者または前記収容空間に収容された前記身体組織の一部と関連する文字情報が彫刻されていることを特徴とする装身具。
【請求項３】
前記蓋体は、
外周形状に沿って形成された蓋枠体を有し、
前記収容部は、
外周形状に沿って形成され、前記蓋枠体と嵌合可能な収容枠体を有し、
前記保持手段は、
前記蓋枠体に貫設された蓋体孔部と、
前記収容部の前記蓋体孔部と相対する位置に貫設された収容孔部と、
前記蓋体及び前記収容部が嵌合された状態で前記蓋体孔部及び前記収容部に貫挿される棒軸と、
前記棒軸が前記蓋体孔部及び前記収容孔部に挿入された状態を保持する軸保持手段と
をさらに具備することを特徴とする請求項１または請求項２に記載の装身具。
【請求項４】
前記装飾部は、
少なくとも一部に貫設された装飾孔部をさらに有し、
前記棒軸は、
前記装飾部が前記蓋体に装着された状態で前記蓋体孔部、前記収容孔部、及び前記装飾孔部に挿入されることを特徴とする請求項３に記載の装身具。
【請求項５】
嵌合された前記蓋体及び前記収容部の間隙、または装着された前記装飾部及び前記蓋体の間隙の少なくともいずれか一方に、前記収容空間を水密状態に保持するための水密充填材をさらに具備することを特徴とする請求項１乃至請求項４のいずれか一つに記載の装身具。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、装身具に関するものであり、特に、内部に毛髪、爪、及び皮膚等の身体組織

の一部を収容し、外面に写真及び文字を彫刻することが可能な装身具に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来より、身体装飾としてネックレス、ペンダント、ブローチ、及び指輪等の装身具が愛用されている。また、これらの装身具の中には、大切な人やペット等の動物の写真を入れておくことのできるロケットペンダントが知られている。例えば、家族や恋人等と長期間に渡って離れて暮らしている場合や、海外旅行等に出かける場合、または、家族の一員として大切な存在であったペットが死んでしまった場合等に使用されることが多い。

【０００３】

一方、大切な人の毛髪等をお守りとして携帯すること等が、従来より行なわれている。このときは、毛髪等をお守り袋に入れたり、箱に入れて携帯することが多かった。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、前述したロケットペンダントに写真を入れる場合、写真は、時間の経過とともに劣化し、色褪せてしまったり、ペンダントから写真が外れてしまうおそれがあった。

【０００５】

また、毛髪等をお守り袋、または箱等に入れて携帯する場合、これらお守り袋等は、内部に水が浸入するおそれがあるため、装身具の使用者が入浴したり、プールに入る場合等には外す必要があり、肌身離さず身に付けることが難しいものであった。

【０００６】

そこで、本考案は、上記実情に鑑み、大切な人等の身体組織を収容可能とし、さらにその人に関する写真等の情報を表面に彫刻した装身具の提供を第一の課題とし、さらに、入浴中などでも常に身に付けておくことのできる耐水性に優れた装身具の提供を第二の課題とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本考案に係る装身具は、「宝石または貴金属を素材として形成された装飾部と、前記装飾部が装着される蓋体、及び前記蓋体と嵌合可能に形成された収容部とを有し、内部に形成された収容空間に人間または動物の身体組織の一部が収容される装身具本体と、前記装身具本体の前記蓋体及び前記収容部の嵌合状態を保持する保持手段と、前記装飾部を前記装身具本体に装着した状態を固定する固定手段とを具備し、前記蓋体または前記収容部の少なくともいずれか一方は、装身する使用者または前記収容空間に収容された前記身体組織の一部と関連する写真が彫刻されている」ことを、上述の課題を解決するための特徴とする。

【０００８】

ここで、装身具とは、ペンダント、ブローチ、指輪、キーホルダー及びネックレス等を例示することができ、さらに装身具本体とは、係る装身具に宝石や貴金属等の装飾部が装着される前の指輪本体やペンダントヘッド等が相当するものであり、主に、金、銀、ステンレス、及び真鍮等の金属製の素材によって形成されるものである。

【０００９】

また、装飾部に含まれる宝石とは、非金属の鉱物等で色彩、光沢等が美しいものであり、ダイヤモンド、エメラルド、サファイヤ、ルビー、ガーネット、琥珀、象牙、珊瑚、真珠等が挙げられる。さらに、天然の石だけではなく、人工石も含まれる。一方、貴金属とは、白金、金、銀、チタン等の希少価値の高い金属材料が例示される。

【００１０】

次に、身体組織の一部とは、上述の装身具本体の収容空間に収容可能な大きさに調製されたものであり、装身具の使用者の家族、恋人等の毛髪、爪、皮膚、または遺骨等が例示

される。また、ペット等の毛、爪、歯、または骨等であってもよい。

【００１１】

また、保持手段とは、収容部と蓋体とが嵌合した状態を安定して保持するためのものであり、例えば、収容部と蓋体とが当接する面に接着剤を塗布し、嵌合することによって接着するもの等が挙げられる。加えて、固定手段とは、蓋体に装着される装飾部を安定して保持するためのものであり、例えば、上述の保持手段と同様に、蓋部と当接する装飾部の面に接着剤を塗布して接着するもの等が挙げられる。

【００１２】

また、蓋体または収容部に彫刻される写真とは、例えば、本考案の装身具の使用者の家族または恋人等の画像が挙げられる。なお、係る写真は、銀等の素材に直接彫刻されるため、経時的な変化を受けることが少ない。

【００１３】

したがって、本考案の装身具によれば、二つに分離可能な装身具の内部に収容空間が形成される。このとき、装身具の使用者が大切に思う人または飼育しているペット等の動物の身体組織の一部を装身具の内部に収容することができる。また、装身具本体には装身具の使用者が希望する写真を彫刻される。これによって、装身具の使用者は、係る身体組織の一部を装身具とともに常に身に付けることができる。さらに、装身具本体に彫刻された写真は劣化することなく、長年に渡って身に付けることが可能になる。

【００１４】

本考案に係る装身具は、「宝石または貴金属を素材として形成された装飾部と、前記装飾部が装着される蓋体、及び前記蓋体と嵌合可能に形成された収容部とを有し、内部に形成された収容空間に人間または動物の身体組織の一部が収容される装身具本体と、前記装身具本体の前記蓋体及び前記収容部の嵌合状態を保持する保持手段と、前記装飾部を前記装身具本体に装着した状態を固定する固定手段とを具備し、前記蓋体または前記収容部の少なくともいずれか一方は、装着する使用者または前記収容空間に収容された前記身体組織の一部と関連する文字情報が彫刻されている」ことを、上述の課題を解決するための特徴とする。

【００１５】

ここで、装身具、装身具本体、及び装飾部の詳細については既に述べたものが適用可能であるため、詳細な説明は省略するものとする。

【００１６】

そして、文字情報とは、文字、数字、及び記号を含むものであり、例えば、装着する使用者または収容空間に収容された身体組織の一部に関する人等の氏名、住所、及び血液型等が挙げられる。なお、係る文字情報は、前述した写真と同様に金属製の素材に直接刻み込まれるものであり、経時的な変化を受けることが少ない。

【００１７】

したがって、本考案の装身具によれば、彫刻される文字情報から、装着する本人または収容空間に収容された身体組織の一部に関する人等に関する情報を得ることが可能になる。そのため、万が一、装身具の使用者が災害などに遭遇した場合であっても、身元確認の一手段として活用することが可能となる。

【００１８】

また、上記装身具を、「前記蓋体は、外周形状に沿って形成された蓋枠体を有し、前記収容部は、外周形状に沿って形成され、前記蓋枠体と嵌合可能な収容枠体を有し、前記保持手段は、前記蓋枠体に貫設された蓋体孔部と、前記収容部の前記蓋体孔部と相対する位置に貫設された収容孔部と、前記蓋体及び前記収容部が嵌合された状態で前記蓋体孔部及び前記収容部に貫挿される棒軸と、前記棒軸が前記蓋体孔部及び前記収容孔部に挿入された状態を保持する軸保持手段とをさらに具備する」ものとしてもよい。

【００１９】

また、棒軸とは、前述の蓋体孔部及び収容孔部に挿通可能な形状を有し、蓋体孔部または収容孔部の少なくともいずれか一方の孔深さよりも長く形成された棒状部材であり、チ

タン、金、銀、及びステンレス等の硬質の素材で形成されるものである。

【００２０】

次に、軸保持手段とは、蓋体孔部及び収容孔部に棒軸が挿通された状態を安定して保持するものであり、例えば、棒軸を挿通した状態で蓋体孔部の周辺の蓋枠体の外側面を切りタガネで彫り起こし、被せるように倒すことにより棒軸が挿通された状態を保持するもの等が挙げられる。

【００２１】

したがって、本考案の装身具によれば、収容部に蓋体を嵌合すると、蓋体及び収容部にそれぞれ貫設された蓋体孔部及び収容孔部によって一本の孔空間が形成される。このとき、係る孔空間に棒軸を挿通することにより蓋体の収容部に対して離間する方向への移動を制限することが可能になる。さらに、具体的に説明すると、形成された孔空間に棒軸が挿通された状態にあると、蓋体孔部及び収容孔部の当接面に棒軸の一部が介在していることになる。そのため、蓋体または収容部のいずれか一方に、前述の方向に力が加えられた場合、蓋体孔部または収容孔部の内孔面が棒軸に接触し、それ以上の移動が制限される。その結果、前述の離間方向への移動が制限された蓋体または収容部により、蓋体の収容部への嵌合状態を安定したものにすることが可能になる。加えて、蓋体を収容部に嵌合した場合、蓋体及び収容部に形成される蓋枠体と収容枠体とが当接することにより、棒軸の軸方向に沿った蓋体の移動も併せて制限されることになる。その結果、互いに直交する二方向への移動が制限された蓋体は、嵌合された状態を保持することができる。

【００２２】

また、上記装身具を、「前記装飾部は、少なくとも一部に貫設された装飾孔部をさらに有し、前記棒軸は、前記装飾部が前記蓋体に装着された状態で前記蓋体孔部、前記収容孔部、及び前記装飾孔部に挿入される」ものとしてもよい。

【００２３】

ここで、装飾孔部とは、装飾部に穿設された貫通孔であり、上述の棒軸が挿通可能な孔径を有するものをいう。

【００２４】

したがって、本考案の装身具によれば、蓋体孔部、収容孔部、及び装飾孔部によって、一本の棒軸を挿通可能な孔部が形成される。そして、係る孔部に棒軸を挿通し、挿通した状態を保持することにより、上述した蓋体孔部、収容孔部、及び棒軸からなる構成による保持手段と同様に、互いに直交する二方向への装飾部の蓋体に対する移動を制限することが可能になる。これによって、装飾部を蓋体に装着した状態を固定することができる。

【００２５】

また、上記装身具を「嵌合された前記蓋体及び前記収容部の間隙、または装着された前記装飾部及び前記蓋体の間隙の少なくともいずれか一方に、前記収容空間を水密状態に保持するための水密充填材をさらに具備する」ものとしてもよい。

【００２６】

ここで、水密充填材とは、装身具が水に浸かった場合等に、蓋体及び収容部の間隙、または装飾部及び蓋体の間隙から水が浸入することを防ぐものであり、例えば、パテや接着剤等が挙げられる。なお、この場合、シリコーン樹脂が耐久性に優れ、無色透明であるため、好適である。

【００２７】

したがって、本考案の装身具によれば、装身具本体と蓋体部が形成する間隙に水密充填剤を充填することによって収容空間が隙間なく閉塞される。このとき、収容空間が水密状態になり、装身具が水に浸されても、収容空間に水が浸入することがなくなる。その結果、内部に収容された身体組織が水に浸かることが少なくなり、身体組織の変質及び劣化が起こることがない。これによって、例えば、入浴したり、プールに入る際にも装身具を外す必要はなくなり、常に身に付けておくことができる。

【考案の効果】

【００２８】

上述のように、本考案の装身具によれば、装身具の使用者の希望に応じて、装身具の内部に形成される収容空間に身体組織の一部を収容することができるとともに、装身具の表面に装身具の使用者が希望する写真及び文字情報を彫刻することができる。また、収容空間を水密状態にすることができる。これによって、装身具の使用者は、入浴する場合等も含め、装身具を常に身に付けることが可能になり、亡くなった家族のことを思い起こしたり、離れて暮らす恋人のことを身近に感じたりすることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【００２９】

以下、本考案の一実施形態である装身具１について、図１乃至図４に基づいて詳細に説明する。ここで、図１は装身具１の構成を示す正面図であり、図２は装身具１の構成を示す背面図であり、図３は装身具１の構成を示す図１におけるＡ－Ａ断面図であり、図４は装身具１の構成を示す分解斜視図である。

【００３０】

本実施形態の装身具１は、図１乃至図４に示すように、銀を素材として形成された蓋体２、及びステンレスを素材として形成され、蓋体２に嵌合する収容部３から構成され、内部に身体組織を収容可能な収容空間Ｓを有する略箱型の装身具本体５と、金を素材として形成され、蓋体２に装着される装飾部６と、装身具本体５及び装飾部６を貫通する棒軸７ａ，７ｂ，７ｃと、蓋体２の上端部に設けられ、環孔部８を有する上端部２ａとを主に具備して構成されている。ここで、本実施形態の装身具１は、収容空間Ｓに装身具の使用者の娘または息子等の家族の乳歯の欠片４を身体組織として収容し、環孔部８に鎖を通すことによってネックレスとして使用するものを例示して説明を行なうものとする。また、説明を簡略化するために、鎖の図示を省略している。

【００３１】

次に、収容部３について詳しく説明する。収容部３は略四角形状を呈する収容板部３ａと、係る収容板部３ａの一方の面からほぼ外周形状に沿って垂設される収容枠体３ｂとが一体的に形成されているものである。そして、収容枠体３ｂの互いに対向する一対の収容枠板３３ａ、３３ｂには相対する三組の収容孔部９ａ，９ｂ，９ｃがそれぞれ貫設されている。また、収容板部３ａの収容枠体３ｂと逆の面３ｃには装身具１の使用者の家族の写真Ｐが彫刻されている（図２参照）。

【００３２】

次に、蓋体２について詳しく説明する。蓋体２は略四角形状を呈する蓋板部２ｂと、係る蓋板部２ｂのほぼ外周形状に沿って形成される蓋枠体２ｃとが一体的に形成されている。そして、蓋枠体２ｃの互いに対向する一対の蓋枠板２２ａ，２２ｂには、上述の収容孔部９ａ，９ｂ，９ｃと相対する位置に蓋体孔部１１ａ，１１ｂ，１１ｃがそれぞれ貫設されている。また、蓋板部２ｂの表面部２ｄには、装飾部６を装着するために、雫型の装着孔部１２が穿設されている。さらに、蓋板部２ｂの表面部２ｄには装身具の使用者の氏名Ｎ及び住所Ａからなる文字情報１３が彫刻されている（図１参照）。ここで、蓋体２の蓋体枠体２ｃの内周面１４と収容部３の収容枠体３ｂの外周面１５とが同一の形状で形成されている。そして、これらを嵌合することにより装身具本体５が形成され、係る装身具本体５の内部には、収容枠体３ｂ、収容板部３ａ、及び蓋板部２ｂによって囲まれた収容空間Ｓが形成される（図３参照）。

【００３３】

次に、装飾部６について、詳しく説明する。装飾部６は、雫を模して形成された装飾体６ａと、装飾体６ａの背面（図３における紙面右側に相当）から延設して形成され、装着孔部１２の内側面と略同形の外周形状を備える断面雫型の装着部６ｂとを有して形成されている。そして、係る装着部６ｂには、蓋体２に装着された際に収容孔部９ｃ及び蓋体孔部１１ｃと相対する位置に装飾孔部１０が貫設されている。

【００３４】

次に、棒軸７ａ，７ｂ，７ｃについて詳しく説明する。なお、棒軸７ａ，７ｂ，７ｃは同一形状のものであり、ここでは、棒軸７ａについて説明を行なう。棒軸７ａは、ステン

レスを素材として蓋体孔部１１ａ及び収容孔部９ａに挿通可能な棒径を有する部材であり、一対の蓋体孔部１１ａの間を架渡可能な（すなわち、蓋体２の幅長さに略一致する）長さに形成されたものである。ここで、収容孔部９ａ及び蓋体孔部１１ａは相対するように貫設されているため、略同一線上に位置する。その結果、棒軸７ａは、収容孔部９ａ及び蓋体孔部１１ａを貫挿した状態となる。なお、同様に、棒軸７ｂは、収容孔部９ｂ及び蓋体孔部１１ｂに貫挿される。また、棒軸７ｃは前述したように、収容孔部９ｃ及び蓋体孔部１１ｃに加え、装飾孔部１０に対しても貫挿されている。

【００３５】

次に、装身具１を組み立てる手順について主に図３及び図４に基づいて説明する。まず、収容部３の収容枠体３ｂの枠内に乳歯の欠片４を載置した状態で収容枠体３ｂの外周面１５に硬化タイプのシリコーン樹脂１６を塗布する。そして、収容枠体の外周面１５と蓋枠体の内周面１４とが略当接するように蓋体２と収容部３とを嵌合させる。次に、装着部６ｂの外周面にシリコーン樹脂１６を塗布し、装着孔部１２に挿入して装飾部６を蓋体２に装着する。さらに、収容孔部９ａ及び蓋体孔部１１ａに棒軸７ａを挿通させ、収容孔部９ｂ及び蓋体孔部１１ｂに棒軸７ｂを挿通させ、収容孔部９ｃ及び蓋体孔部１１ｃ及び装飾孔部１０に棒軸７ｃを挿通させる。次に、蓋枠板２２ａ，２２ｂの蓋体孔部１１ａ，１１ｂ，１１ｃのそれぞれの位置に合わせてダイヤ１７をそれぞれ設置し、係るダイヤ１７の周辺の蓋枠板２２ａ，２２ｂを切りタガネ等で彫り起こして設けた爪部（図示しない）を、ダイヤ１７の外表面の一部に被せるように倒すことによってダイヤ１７を蓋体２に留める。このとき、蓋体孔部１１ａ，１１ｂ，１１ｃはダイヤ１７によって閉塞され、棒軸７ａ，７ｂ，７ｃが挿通された状態を保持することができる。その結果、棒軸７ａ等により蓋体２と収容部３と装飾部６とが離間する方向（図３における紙面左右方向に相当）への移動が規制される。すなわち、蓋体２と収容部３との嵌合状態が保持されるとともに、装飾部６の装身具本体５への装着状態を固定することができる。ここで、シリコーン樹脂１６が本考案における水密充填材に相当し、ダイヤ１７が本考案における軸保持手段に相当する。また、棒軸７ａ，７ｂ，７ｃ、及び爪部が本考案における保持手段に相当し、棒軸７ｃ、及び爪部が本考案における固定手段に相当する。なお、説明を簡略化するために、図４におけるシリコーン樹脂１６及びダイヤ１７の図示を省略している。

【００３６】

なお、上述のダイヤ１７は装飾の一部として認識されるため、蓋枠体２ｃに設けられる蓋体孔部１１ａ，１１ｂ，１１ｃによって装身具１の美観を損なうことはない。

【００３７】

これにより、装身具の使用者は、家族の身体組織の一部を装身具１の内部に形成される収容空間Ｓに収容することができる。さらに、装身具の表面には装身具の使用者の文字情報１３及び家族の写真Ｐが彫刻される。このとき、文字情報１３及び家族の写真Ｐは銀を素材とした蓋体２、及びステンレスを素材とした収容部３に直接彫刻されるため、経時的変化を受けることが少ない。また、蓋体２と収容部３との間隙、及び蓋体２と装飾部６との間隙にシリコーン樹脂１６を充填し硬化させることによって収容空間Ｓを水密状態に保持することができる。これによって装身具の使用者は、入浴する場合等も含め、装身具を常に身に付けることが可能になり、大切な家族のことを思い起こしたり、身近に感じたりすることができる。また、自身に関する文字情報１３を装身具１に彫刻することにより、万が一、装身具１の使用者が災害などに遭遇した場合であっても、身元確認の一手段として活用することが可能となる。

【００３８】

以上、本考案について好適な実施形態を挙げて説明したが、本考案はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本考案の要旨を逸脱しない範囲において種々の改良及び設計の変更が可能である。

【００３９】

すなわち、本実施形態において、装身具としてネックレスの態様のものを示したが、これに限定されるものではなく、指輪、イヤリング、ブローチ等に適用するものであっても

構わない。

【００４０】

また、蓋体２及び収容部３は、銀及びステンレスを素材として形成するものを示したが、素材はこれに限定されるものではなく、パラジウム、または真鋳等を利用してもよい。さらに、装飾部６は、金を素材として形成されるものを示したが、素材はこれに限定されるものでなく、イエローゴールド、ピンクゴールド、及びグリーンゴールド等の種々の色彩の金を利用することが可能である。さらに、貴金属に限定されず、ダイヤモンド、エメラルド、及びルビー等の種々の宝石を利用することも可能である。これにより、装身具の使用者の嗜好、及び予算に応じた装身具を作成することが可能となる。

【００４１】

また、装飾体６ａは、雫を模して形成したものを提示したが、これに限定されるものではなく、ハートや蝶等を模して形成したものを使用しても構わない。これにより、幅広いデザインの装身具を作成することが可能になる。

【００４２】

また、収容空間Ｓに収容される身体組織は一つに限らず、複数であってもよい。さらに、身体組織として装身具の使用者本人の毛髪や爪等の身体組織の一部を収容しても構わない。これにより、万が一、装身具の使用者が災害などに遭遇した場合であっても、装身具に収容された身体組織の一部に含まれる遺伝情報を身元確認の一手段として活用することが可能となる。そして、身体組織を収容した状態で収容空間Ｓにシリコーン樹脂等を充填してもよい。これにより、身体組織はシリコーン樹脂等に内包され、装身具１に衝撃が加わった場合でも、収容空間Ｓに衝突するのを防止できるため、身体組織を破損するおそれがなくなる。

【００４３】

また、文字情報１３として装身具の使用者の名前Ｎ及び住所Ａを示し、写真Ｐとして装身具の使用者の家族の画像を示したが、これに限定されるものではなく、例えば、亡くなった家族（以下、故人と称する）の遺骨等の形見を収容空間Ｓに収容し、文字情報１３として故人の名前を彫刻し、写真として故人の顔を彫刻したもの等であっても構わない。これにより、故人の遺骨等の形見を身に付けることができるとともに、墓や仏壇に代わり、本発明の装身具を用いて供養を行なうことも可能である。そして、家族の一員として大切な存在であったペットが死んでしまった場合等にも同様に利用することができる。

【００４４】

また、文字情報１３としては日本語に限られるものではなく、外国語であっても構わない。これにより、装身具の使用者が外国に滞在する場合でも、身元確認の一手段として活用することが可能となる。

【００４５】

また、本実施形態において、図１及び図２における横方向に棒軸７ａ，７ｂ，７ｃを貫挿させたものを提示したがこれに限定されるものではなく、例えば、図１及び図２における縦方向の略同一線上に位置する蓋体孔部、収容孔部、及び装飾孔部を貫設し、棒軸を挿通させるものであっても構わない。

【図面の簡単な説明】

【００４６】

【図１】装身具の構成を示す正面図である。

【図２】装身具の構成を示す背面図である。

【図３】装身具の構成を示すＡ－Ａ断面図である。

【図４】装身具の構成を示す分解斜視図である。

【符号の説明】

【００４７】

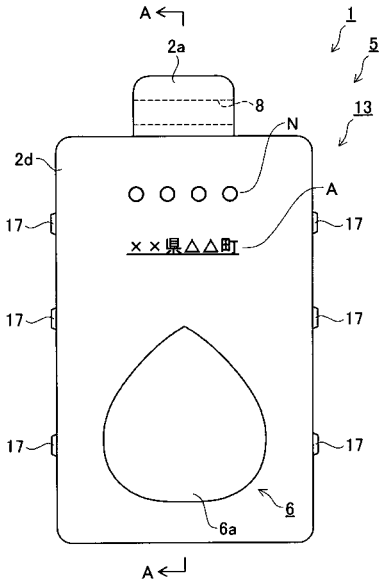
１　装身具

２　蓋体

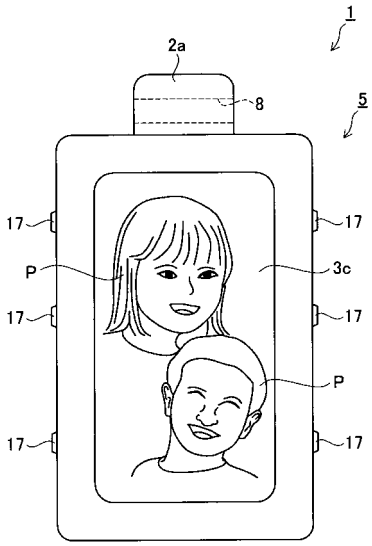
２ｃ　蓋枠体

３　収容部
３ｂ　収容枠体
４　乳歯の欠片（身体組織）
５　装身具本体
６　装飾部
７ａ，７ｂ，７ｃ　棒軸（固定手段、保持手段）
９ａ，９ｂ，９ｃ　収容孔部
１０　装飾孔部
１１ａ，１１ｂ，１１ｃ　蓋体孔部
１２　装着孔部
１３　文字情報
１６　シリコーン樹脂（水密充填材）
Ｓ　収容空間
Ｐ　写真

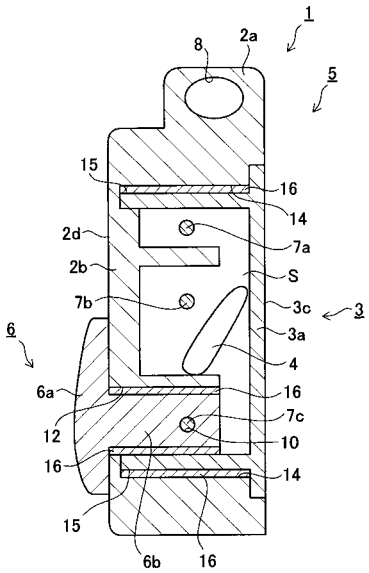
【図１】



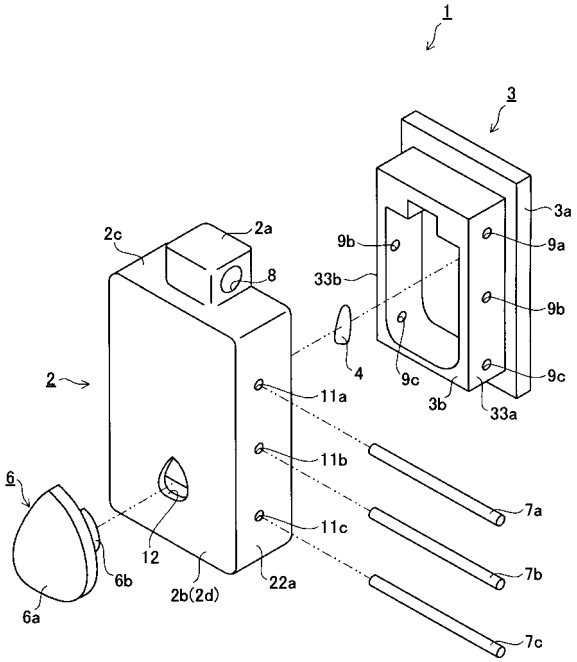
【図２】



【図３】


1
8
2a
5
15
16
14
2d
7a
2b
S
7b
3c
3
6
3a
4
6a
16
12
7c
10
16
14
15
6b
16

【図４】


1
3
3a
2c
2a
9b
9a
8
33b
9b
4
9c
9c
2
11a
3b
33a
11b
6
7a
11c
12
7b
6b
2b(2d)
22a
7c
6a